

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成30年度 第1回 相模原市総合計画審議会		
事務局 (担当課)	企画政策課 電話042-769-8203 (直通)		
開催日時	平成30年5月21日 (月) 18時00分～20時15分		
開催場所	相模原市役所 本庁舎本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	8人 (別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	6人 (企画政策課長 他5人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0名
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>開会</p> <p>1 議事</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 総合計画進行管理について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 業績評価指標の見直しについて</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) その他</p> <p>閉会</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(○委員の発言、□会長の発言、●事務局の発言)

開会 椎橋企画政策課長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理について

□ 本日の議事(1)「総合計画進行管理について」事務局から説明願いたい。

● 事務局より資料の説明が行われた。

○ 次回審議会までの間に各委員が事前に質問事項を事務局に提出し、これに対する施策所管局からの回答も踏まえた上で、事務局がヒアリングを行うということか。

● 昨年度まで各委員が部会で行っていたヒアリングと同様に、事前質問に対する回答の中で疑問に思うようなところについては、確認をする。

□ 資料1について、次期総合計画の進行管理の仕組みをさらに的確なものにするために、何点か指摘する。

第1に、進行管理のイメージ図において、総合戦略が改善(A c t)のサイクルから外れているように見えるため、修正が必要である。現在の図で計画(P l a n)の下に実施計画と総合戦略を並べて位置付け、総合戦略の枠を削除するか、現在の図のように総合連略を別枠にするのであれば、P l a nから横線を引いて総合戦略を位置づけ、総合戦略のD oの矢印は削除するか、いずれかで整理した方がよい。

第2に指標については、業績評価指標のみならず成果指標においても、その達成状況等を考慮した上で、目標値や指標自体を変更する等柔軟に対応すべきである。また、目標値の根拠について市民の納得を得られるものに明確にする必要がある。

第3に評価の視点については、これまでの進行管理での学習結果を生かす意味で、建議書の「総括評価」で指摘してきた「施策の体系や費用対効果を意識した事業推進」、「部局を超えた横断的な連携による事業推進」、「市民、N P O、

企業など多様な都市の担い手のもつ資源・活力を生かした事業推進」、「市民の暮らしにトータルに対応する地域コミュニティを目指した事業推進」、「費用対効果を意識した事業推進」、「地域の独自性を生かした事業推進」といった事項についても組み込むべきである。

第4に指標の評価基準としてAからDのほかに「今年度は成果指標の測定が出来ないもの」とあるが、次期総合計画においてはこのような指標を設定しないよう留意願いたい。

次に、資料2の進行管理実施方針に関連して、進行管理は市民への説明責任を果たすことを重視しているのであれば、市民に関心を持ってもらえるよう「建議書」という表現を「成績評価レポート」と、副題でも良いので改めても良いのではないかと。

同じく資料2の評価の基本的視点についてだが、資料1に掲げる視点と同様でよく、「達成度」ではなく市民と約束した目標を達成したか否かで評価すべきである。

また、建議を踏まえて予算等への反映に努めるとのことだが、予算要求の段階で、この予算額であれば各担当部局が掲げた成果目標、業績目標の達成が可能であるといった宣言をしてもらい、その結果を審議会の評価において検証するという仕組みを組み込んでみてはどうか。各部局の成果、業績達成意識を浸透させる必要がある。

最後に資料6の改善工程表について、四半期ごとの達成すべきことが明確になっていないと感じる。矢印でつなぐのではなく、もう少しそういった点を意識して改善に取り組んでいただきたい。

- 予算編成の段階で達成することを約束させるのは良いことだと思うが、審議会でその検証をするのは、改善工程表を見る段階ということか。
- 改善工程表ではなく、各年度の進行状況を把握する際に見るべきものであるため、進行管理シートの中に予算の検証欄を設けるのが良いと考える。
- 予算との連動についてはなかなか難しいとは思いますが、予算編成に反映させていくよう努めることは望ましいことであるため、財務当局と研究していきたい。
また、建議書という表現は、一般市民になじみのない用語であるため、提案いただいたような表現へ改めることについて、前向きに検討していきたい。
- 改善工程表については、プロジェクトマネジメント手法におけるタスクの樹形図を作成するなど、これを達成するためには、何をどの順番でやっていかな

ければならないということの整理をする必要がある。

- 改善工程表の作成時に、事務局から何かイメージできるようなものを示し、具体的に何をやれば改善が見込めるのか、整理するよう促していきたい。
- 各指標について、アウトカム、アウトプット、インプットのいずれに当たるかを明確にすれば、指標の目標値の設定根拠も分かりやすい。
- 建議書の名称については是非検討願いたい。
- 名称の変更は市民に注目されることが見込まれるが、例えば、待機児童対策には、女性の就業や社会進出への支援、さらには少子化対策も含んでいるが、これらを総合的に評価しているわけではないため、こうした進行管理の手法の限界について強調し、バランスを取る必要がある。
- 各局への事務局のヒアリングはどの程度の時間行うのか。
- 特に時間を定めることなく、必要に応じて納得がいくまで行うことを想定している。
- 各局がどのようにヒアリングをイメージするかによって反応が異なることが懸念される。科学的調査の視点であれば、これまでと同様中立的な反応があると思うが、企画部門が行うとなると査定の視点で対応されるのではないか。
- 査定といっても、企画部門が財政に強く影響力を持っているわけではないのであれば、さほど問題はないのではないか。次期計画の策定という作業もあるため、あまり厳格に考えずに、事務局案に不足があれば質問をして訂正を行うという形で、審議会が評価を是正していけば良いのではないか。
- 初めての試みであるため、我々としても正直どこまでできるか未知数なところはあがるが、委員の立場に成り代わって評価を実施するという姿勢を持って、評価案を作成し、提示させていただきたいと考えている。
- これまでのヒアリングは、事前質問に対する回答のみではなく、その後の議論を通じてお互いに発見していく場であった。あくまで市民の代表といった立場として、事務局もヒアリングに臨んでいただきたい。

- 事前質問は、これまで担当していた部会に関連する施策のみで良いか。
- 昨年の部会の範囲を中心に確認いただき、その他何か気になることがあれば意見をいただいても構わない。

(2) 業績評価指標の見直しについて

- 本日の議事(2)「業績評価指標の見直しについて」事務局から説明願いたい。
- 事務局より資料の説明が行われた。
- 指標27-1を「一般ごみ収集運搬業務の民間委託割合」に変更することだが、変更前の「市焼却施設で処理が可能なごみの量」との関連性がよく分からない。
- 「ごみ処理体制の整備」という取組の方向につながるものとして指標を改めたものであり、委託を拡大することによりごみ処理体制を再整備し、また直営のゴミ収集車の台数や職員数の削減により経費の削減を目指すものである。
- 50%委託することによりどれだけコストが下がるかはよく分からない。
- 明確な金額は分からないが、やはり直営でやるよりも民間委託の方がコストは安いということで進めるものである。
- 指標7-1を「いきいき百歳体操の団体数」に変更することだが、変更前はどのような指標だったのか。
- 「介護予防事業の参加者数」という指標としていたが、住民が自発的に参加する介護予防を推進していく流れの中で、こうしたものを開催している団体数を増やすことを目標とした方が妥当と判断し、変更したものである。
- 政策の焦点化の意図は分かるが、限定されてしまうため本当にそれでいいのか疑問である。
- 元気になる方法策として体操を行う団体数を設定することは良いと思うが、

特別養護老人ホーム等介護施設の定員数を基準として設定し、待機児童と同様に待機老人数を把握しても良いのではないかと思う。

○ 指標 7-3 の「認知症サポーターの養成数」について、最終年度の目標値を総人口の 7% を目指すというその根拠は何か。

● 7% という数値に妥当性や根拠があるのか疑問であるため、確認する

□ 次期総合計画の策定では、第 1 に全体的に指標や目標値の見直しが必要である。設定した指標が当該部局の最終的な成果・業績の目標を示すものとして適切か、その指標名は市民に分かりやすいものとなっているかなど、もう一度見直す必要がある。

例えば「合計特殊出生率」は外的要因の影響が大きく、行政の努力による影響が見えにくいものであり、適切とは言えない。またその目標値は 2 未満であり、これは人口が半減することを容認していると言えるため、指標とするのであればせめて全国値を上回る目標値を設定すべきである。

「学習支援を行った中学生の高校進学率」も限定し過ぎており、「人口千人あたりの要援護者数の減少率」といった大まかな指標のほうが適切である。

「日中活動系事業所の利用者数」は意味するところが分かりづらく、指標の説明欄への記載のほうが名称として適切である。他にもいくつか同様の指標があり、説明欄の記載を要約して指標名とすると正確ではないということであれば、注釈を付ける等、市民に分かりやすいものへと修正願いたい。

学校教育に関しては学力調査テストの結果や登校拒否児童・生徒数、福祉に関しては児童虐待や児童保護の件数といった、市民が納得できるものが望ましい。

文化の振興に関しては、文化祭や利用率ではなく、歴史的文化遺産の活用といった視点のものを考えていただきたい。

「調査測定地点環境基準適合率」については、意味が分かりづらいほか、大気と水質を満たしているかを見るものとのことだが、土壌は必要ないのか、また「合流改善事業整備進捗率」は、環境基準値内で処理された下水量の割合など、市民生活にリンクした指標設定が必要である。

快適な都市空間の創造に関しては、都市緑化区域の指定面積や無電柱道路の延長距離、都市農園数、公共オープンスペースから 300m 以内に居住する市民の数など、市民生活になじんだ指標設定の工夫が必要である。

経済に関しては、昼夜間人口比率は経済的な自立性を表すものとして適当であり、高齢者や女性の就業率、起業率といったものも良い。

商業・サービス業に関しては、人口千人当たりの小売店・飲食店数や空き店舗・空家率、交通に関しては、自転車専用レーンやバス優先レーンの延長、景観の保全と創造に関しては、景観地区の指定数といったものが考えられる。

第2に、市民が納得できるような目標値の根拠を明確にする必要がある。ほとんどの指標において、設定理由の欄にその設定に当たっての根拠や妥当性が明確に示されていない。一般に目標値の設定には、理想的な達成水準を示す「期待値」、それ以上下がったら問題になる、あるいは違法状態に陥るという水準である「限界値」、その中間のレベルを達成すれば問題の7割程度は解決できるという「充足値」といった3つのレベルがある。「期待値」を達成するには過剰なコストと労力がかかり、また「限界値」では評価を上げるためのお手盛りの設定となり、そこでそれぞれの施策・事業の「充足値」をどの水準に求めるか、どの基準が適切か、業務分析等を通じてしっかり考え、市民が納得できる根拠を明確に示していただきたい。

最後に、現状の指標はいずれも拡大型であり、これは同時に経費も拡大することを意味するため、今後は縮小型の指標も考えていく必要がある。欧米では、予算の3割をカットする目標値を設定するところもあるが、日本であれば、経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率、連結決算比率といった予算に関するものの設定や、事業の1割カットあるいは統廃合により各部局の事業を絶えず見直し時代の変化に応じた事業内容としていく、または公共施設の廃止・統合・集約化の件数といったものが考えられる。高齢化を伴う人口減少時代の厳しい財政状況にあっては、こうした指標設定が求められるのではないかと。

- 指標については、確かに名称だけでは分かりづらいものが見受けられるため、次期の計画においては、市民にとって分かりやすい表記にするとともに、これまでの建議も踏まえた上で、適切な指標や目標値を設定していきたいと考えている。

また、縮小型の目標の設定といった点については、総合計画を下支えする都市経営指針及び実行計画の中で目標を設定、管理しており、昨年度300超の事業の精査を行い、事業の統廃合などにより16億円程度の予算節減を図ることができた。しかしながら、総合計画との二重管理という体制は分かりづらいということを課題として認識していることから、これらの整理統合について検討しているところである。

なお、公共施設の統廃合についても、20%の床面積を削減するという目標を掲げてはいるが、なかなか達成に向けては程遠い状況にある。

- 今すぐに改善をととは言わないが、次期計画においては適切な目標水準を検討

し、その根拠を市民が理解しやすいように説明願いたい。

- 期待値、充足値、限界値のいずれが適切かといったことも含め、所管課と調整しながら指標を設定していく。
- 指標 7-4 「小規模多機能型居宅介護の整備数」については、第 7 期高齢者福祉計画策定に伴い修正したとあるが、そもそもこの計画がどういうものか分からない市民に対して十分な説明とはなっていない。
また、指標 38-3 として市街化区域編入の進捗率を測るものを新たに設定しているが、全国的に都市政策が拡大型から縮小型に転換している中、コンパクトに集約することについて検討を進めたほうが良い。高齢者が近くに近所の人が集まるカフェや小売店が欲しいと思っても、地区計画で従来の都市空間のイメージ、良好な都市空間のイメージを規制してしまうため、柔軟に対応し難い面も持っている。
- 市民にとってどんな社会が良いのかというイメージが分からないままに指標だけ見ても議論はできないため、どんな生活や活動がしたいかといったことから考え、また今後は総花的というわけにもいかないため、取捨選択も必要になるのではないか。
- 政策の体系図や指標の体系図を示してもらえれば、全体の構成が理解でき、審議会だけでなく職員においても新たな気づきを得られるのではないか。今すぐは無理でも、来年には用意いただきたい。
- 改善が大きな目的であり、一緒に改善に向けて取り組むことが事務局としての立場でもあるため、可能な限り客観的に説明を受けた上で、評価や改善に向けた意見ができればと思っている。
- 行政のアマチュアである市民の視点にどこまで立てるかということかと思う。極力市民の目線でヒアリングを行い、評価案をまとめていただきたい。

(3) その他

- 議事 (3) 「その他」について事務局から説明願いたい。
- 事務局より次期総合計画の策定に向けた今後のスケジュール等について説

明が行われた。

- 他に意見等がないようなので、本日の議事は終了とする。

閉会 椎橋企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科		出席
2	大谷 聡穂	公募		欠席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科	副会長	出席
4	栗田 愛子	公募		出席
5	高田 泉	公募		欠席
6	中田 恭子	青山学院大学理工学部化学・生命 科学科		出席
7	長野 基	首都大学東京都市環境学部都市政 策科学科・大学院都市環境科学研 究科都市政策科学域		出席
8	西田 恵一郎	和泉短期大学児童福祉学科		出席
9	林 佳美	公募		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席